

学校だより



岡山県の新型コロナウイルス感染者が減り、緊急事態宣言は解除になりました。また、ワクチンの接種も本格的に始まり、少しずつ希望の光が見えてきました。しかし、東京都を中心に感染が再拡大しつつあり、東京オリンピック・パラリンピックの開催による感染の第5波が大変心配されます。油断することなく感染防止に細心の注意を払い、感染収束を願いながら新しい生活様式を継続していきましょう。引き続き学校では、感染拡大防止対策に万全を期していきます。ご家庭でもよろしくお願いいたします。

ところで、異例の早い梅雨入りでしたが、今のところ雨量は多くなく、岡山県では大きな被害は出ていません。しかし、異常気象が当たり前になってきている今日、西日本豪雨の教訓を忘れてはいけません。避難場所・避難経路の確認や停電への備え、非常持ち出し品の準備等、お住まいの立地環境に合った事前の対応をぜひお願いします。

さて、1学期もまとめの月になりました。昨年に引き続き、子どもたちが楽しみにしていた水泳学習が中止になってしまいましたが、GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末を活用した学習にどの学年も興味をもって取り組んでいます。学習面でも生活面でも、子どもたちは多くのことを学び、着実に成長してきています。今月はこれらのまとめとして、学習面では獲得した知識や身に付けた力の定着を図るとともに、生活面では「できるようになったこと」と「まだできていないこと」を振り返って自覚させ、次の目標を立てさせたいと考えています。1学期のお子様の様子につきましては、個人懇談でお知らせします。力が伸びてきたことやこれからの課題等を含め、お子様のより良い成長のために一緒に考える時間になりたいと考えています。ご多用とは思いますが、ご参加をよろしくお願いいたします。



「務めを最後まで果たす」

学校・学級で子どもたちは、日直や係の仕事、給食や掃除の当番、委員会の活動等で役割をもって生活し、みんなのために働いています。これは、将来、社会生活を送る上での基礎になるものです。「何を」「何のために」「どのようにして」という目的意識をもたせ、最後まで取り組むことができるよう、今後も子どもたちに指導や支援をしていきたいと考えています。そして、子どもたちにやり遂げたという達成感や満足感を体験させ、次への「やる気」につなげていきたいと思ひます。ご家庭でも同様によろしくお祈いします。



【 その子の人生を左右する教師という職業 】

小学校のある先生の実話を紹介します。何度読んでも感動してしまいます。教師としての自覚と責任をもって、大切なお子様の教育に取り組んでいきます。

私が小学校5年生の担任になった時、どうしても好きになれない児童が一人いた。その少年は、一人だけ服装が不潔でだらしく、問題児だった。

私は、少年の記録に悪いところばかりを記入するようになっていた。

ある時、少年の1年生の記録が目にとまった。

「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ。」

「間違いだ。他の子の記録に違いない。」私はそう思った。そして、2年生以降の記録を探した。

2年生…

「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する。」

3年生（1学期）…

「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りをする。」

3年生（3学期）…

「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる。」とあり、

4年生…

「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子供に暴力をふるう。」と書かれていた。

私の胸に激しい痛みが走った。ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に立ち現れてきたのだ。私にとって目を開かれた瞬間であった。

放課後、私は少年に声をかけた。

「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？」

「分からないところは、教えてあげるから。」

少年は初めて笑顔を見せた。それから毎日、少年は教室の自分の机で、予習復習を熱心に続けた。

授業で少年が初めて手を挙げた時、私に大きな喜びがわき起こった。少年は、自信をもち始めていた。

それはクリスマスの午後だった。少年が小さな包みを私の胸に押しつけてきた。

後で開けてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。

私はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねた。

雑然とした部屋で独り本を読んでいた少年は、私に気が付くと飛んできて、私の胸に顔を埋めて叫んだ。

「ああ、お母さんの匂い！今日は、なんてすてきなクリスマスなんだ。」

6年生では、私は少年の担任ではなくなった。

卒業の時、私に少年から1枚のカードが届いた。

「先生は、僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番すばらしい先生でした。」

それから6年。またカードが届いた。

「明日は、高校の卒業式です。僕は、5年生で先生に担任をしてもらって、とても幸せでした。

おかげで奨学金をもらって、医学部に進学することができます。」

10年を経て、またカードが来た。

そこには、私と出会えたことの感謝と父親との辛い体験があるから患者の痛みが分かる医者になると記され、こう締めくくられていた。

「僕はよく5年生の時の担任の先生を思い出します。あのままダメになってしまう僕を救ってくださった先生を神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、5年生の時に担任をしてくださった先生です。」

そして1年後。届いたカードは、結婚式の招待状だった。

書き添えられていた1行

「母の席に座ってください。」

結婚式当日

私は、あの時プレゼントしてくれた彼の母親の香水を身にまとい、母の席に座った。

